令和7年度 もも防除暦(非コンフューサー体系)

氷見市農業協同組合 富山県高岡農林振興センター

_						薬剤の調合	10a当	収穫前		
回 数	月	時 期	実施日	散布薬剤名	希釈倍率	(水100深当り)	散布量	日数	主 な 対象病害虫	注 意 事 項
休眠期		カイガラムシ類の発生が目立つ場合は、機械油乳剤95(20倍)を発芽前に散布する(石灰硫黄合剤との 湿田は避ける、また、樹勢が弱っている場合は変素を失じるおそれがあるので数あしない)。また、カイ					●カイガラムシ類は難防除害虫なので、 薬剤散布と耕種的対策を組み合わせて総合的に防除することが重要である。			
1	3	上 旬 (休眠期)		石灰硫黄合剤	7 倍	f 14 %	300 Ki	発芽前	縮葉病、胴枯病、黒星病、カイガラムシ類	●せん孔細菌病対策として、枯れた枝、芽は、切除し、園外へ持ち出し適正に処分する。
2		上 旬 (開花直前)		ムッシュボルドーDF	500 倍	f 200 g	300 li	開花前まで	せん孔細菌病、縮葉病	●縮葉病の被害葉は、摘み取り、園外へ持ち出し適正に処分する。 ●灰星病対策として、花腐れ(枯れた花)を除去し、園外へ持ち出し処分する。
3	4	中 旬 (落花直後)		ストマイ液剤20	1,000 倍	f 100 ml	350 KX	60日前まで	せん孔細菌病	●前年に 灰星病 の発生が多かった園では、③回目に ロブラール500アクア (1,500倍)を混用する。 ●カメムシ類、シンクイムシ類(新梢の
4)		下 旬		トレノックスフロアブル	500 倍	200 ml	350 %%	7日前まで	灰星病、黒星病、せん孔細菌病、縮葉病	芯折れ)の発生が多い場合は、スタークル 顆粒水溶剤(2,000倍)を散布する(④、⑤
)				スターナ水和剤	1,000 倍	100 g	,,	7日前まで	せん孔細菌病	回目に混用可)。 ●コスカシバ対策として、4月下旬にガッ
⑤		上 旬		デランフロアブル	600 倍	166 ml	350 %%	7日前まで	せん孔細菌病、灰星病、黒星病	トサイドS(1.5倍)を樹幹部及び主枝に塗布、または散布する。 ●せん孔細菌病の発生が多い場合は、⑤ 回目にマイコシールド(1,500倍)、またはバ
6	5	中 旬		トレノックスフロアブル	500 倍	200 ml	400 YX	7日前まで	灰星病、黒星病、せん孔細菌病、縮葉病	リダシン液剤5(500倍)を混用する。 ●カイガラムシ類の発生が多い場合は、
•	Ĭ	, E)		モスピラン顆粒水溶剤	4,000 倍	f 25 g	לנק ססו	前日まで	モモハモグリガ、アブラムシ類、シンクイムシ類、コガネムシ類成虫、カメムシ類	⑥回目のモスピラン顆粒水溶剤を2,000倍 で散布する。
(7)		下 旬		デランフロアブル	600 倍	166 ml	400 Y.	7日前まで	せん孔細菌病、灰星病、黒星病	●アブラムシ類の発生が多い場合は、ダントツ水溶剤(4,000倍)を単剤で散布す
<i>(</i>)				アプロードフロアブル	1,000 倍	100 ml	לניו	14日前まで	カイガラムシ類幼虫	<u>5.</u>
				ベルクート水和剤	2,000 倍	50 g	400 ให้	前日まで	灰星病、黒星病	●コガネムシ類、灰星病、せん孔細菌 病対策のため、必ず「袋掛け」を行う。
8		上 旬		マイコシールド	1,500 倍	66 g		21日前まで	せん孔細菌病	●6月以降、 せん孔細菌病 の被害葉が多い場合は、袋掛け終了後、速やかに ICボル
				サムコルフロアブル10	5,000 任	<u>20 ml</u>		前日まで	モモハモグリガ、シンクイムシ類	ド-412(50倍)を単剤で散布する。 ●カメムシ類の発生が多い園では、⑧回目
(9)	6	中 旬		ダコニール1000	1,000 倍	100 ml	400 YZ	前日まで	灰星病、黒星病	のサムコルフロアブル10を スタークル顆粒 水溶剤(2,000倍)に変更する。
0				ダイアジノン水和剤34	1,000 倍	100 g		前日まで	シンクイムシ類、ハマキムシ類、カイガラムシ類、アブラムシ類	」四日のメコーール1000をドレノノンスノロバ
(10)		下 旬		ベルクート水和剤		400 YZ	前日まで	灰星病、黒星病	ブル(500倍)に変更する。 ●6月中旬~収穫期にカメムシ類の発生	
Ů		-		デミリン水和剤	3,000 倍	33 g		7日前まで	モモハモグリガ、シンクイムシ類	が多い関では、 モスピラン顆粒水溶剤 (4,000倍、前日まで)を散布する(⑨、⑩ロ
(11)		上 旬		ロブラール500アクア	1,500 倍	66 ml	400 Yi	前日まで	灰星病	目の殺虫剤をモスピラン顆粒水溶剤に変 更可。②回目に混用可。) ●ハダニ類が発生した場合は、ダニサラ
	7	_		スミチオン水和剤40	1,000 倍	100 g		3日前まで	シンクイムシ類、カメムシ類、モモハモグリガ、ハマキムシ類	バフロアブル(2,000倍)を単剤で散布する。また、散布前に、園内の草刈りを徹底
12	•	中 旬 (除破袋後)		アンビルフロアブル	1,000 倍	100 ml	400 ให้	前日まで	灰星病、黒星病	する。 ●灰星病 被害果は、必ず除去し、園外へ
13	8	末 (収穫後)		スミチオン水和剤40	1,000 倍	f 100 g	400 ให้	3日前まで	シンクイムシ類、モモハモグリガ、ハマキムシ類	持ち出し適正に処分する。 ●収穫後、台風等、強風が予想される場合は、事前にムッシュボルドーDF(500倍、クレ
(14)		中旬]	ムッシュボルドーDF 500 倍	200 g	400 \%	開花前まで	せん孔細菌病	フノン 100倍加用)を散布する。 ●秋季せん定による切り口には、確実に	
(II)	9	十 判		クレフノン	100 倍	1 kg	400 FJL	_	薬害軽減	トップジンMペーストを塗布する。 ●せん孔細菌病の多発園は、10月上旬に
15	J	下旬	旬	ムッシュボルドーDF	500 倍	200 g	400 ให้	開花前まで	せん孔細菌病	も ムッシュボルドーDF (500倍 クレフノン 100倍加用)を散布する(秋季防除3回
		ı. ÞJ		クレフノン	100 倍	1 kg		_	薬害軽減	目)。

アンダーラインは前年からの変更点です。

農薬の使用基準 * 商品名によっては、農薬登録内容が異なる場合がありますので、十分確認してください。

歴 栄 ツ 医 用 本 年	* 問い句によりには、辰栄豆球内谷が共なる場合	かめかまる
■殺 菌 剤	使用時期	使用回数
石灰硫黄合剤	発芽前	-
ムッシュボルドーDF	開花前まで	-
ストマイ液剤20	収穫60日前まで	2回以内
トレノックスフロアブル	収穫7日前まで	5回以内
スターナ水和剤	収穫7日前まで	3回以内
デランフロアブル	収穫7日前まで	4回以内
ベルクート水和剤	収穫前日まで	3回以内
マイコシールド	収穫21日前まで	5回以内
ダコニール1000	収穫前日まで	6回以内
ロブラール500アクア	収穫前日まで	3回以内
アンビルフロアブル	収穫前日まで	3回以内
バリダシン液剤5	収穫7日前まで	4回以内
ICボルドー412	-	-
トップジンMペースト	剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後	3回以内

412	_			WIEPの使用回数130	回以内(但し、他
_ル プジンMペースト	剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後	3回以内			
			-	= 7 0 /h	# m + :

(注意)使用時期が「収穫前日まで」の場合、「散布後24時間」以上あけて収穫してください。

(注意)成分による使用回数制限もあるので、十分に留意して、農薬の使用基準を遵守してください。

十分確	認してください。		
	■殺 虫 剤	使用時期	使用回数
機械	油乳剤95	ı	-
モスヒ	プラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内
アプロ	コードフロアブル	収穫14日前まで	3回以内
サム	コルフロアブル10	収穫前日まで	2回以内
ダイフ	アジノン水和剤34	収穫前日まで	4回以内
デミリ	ン水和剤	収穫7日前まで	3回以内
スミチ	オン水和剤40	収穫3日前まで	6回以内*注
スター	-クル顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内
ガット	サイドS	収穫30日前まで	1回*注
ダント	ツ水溶剤	収穫7日前まで	3回以内
ダニ+	ナラバフロアブル	収穫前日まで	2回以内

^{*}注:成分MEPを含む農薬。

MEPの使用回数は6回以内(但し、樹幹処理は1回以内)。

■そ の 他	使用方法	使用回数
クレフノン	銅水和剤に混用して散布	-

[※]散布にあたっては、農薬のドリフト(園外等への飛散)の無いよう、十分留意して散布してください。

[※]農薬はラベルを熟読の上、記載されている使用基準を守って適正に使用しましょう!!